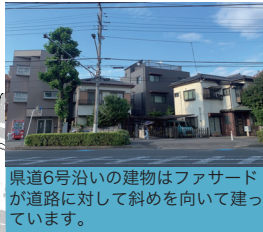


3-4 大山街道北側エリア

溝口5丁目と二子1丁目にまたがり、多摩川の暗渠と幹線道路から派生した路地から形成される生成的な成り立ちを持つエリアです。エリア内には高津小学校と高津図書館があり、地域の教育活動の拠点となっています。大山街道と県道6号に挟まれており、エリア内の大部分が第一種住居地域であるため、高さの低いアパートや戸建て住宅が高密度に建ち並び密集市街地となっています。

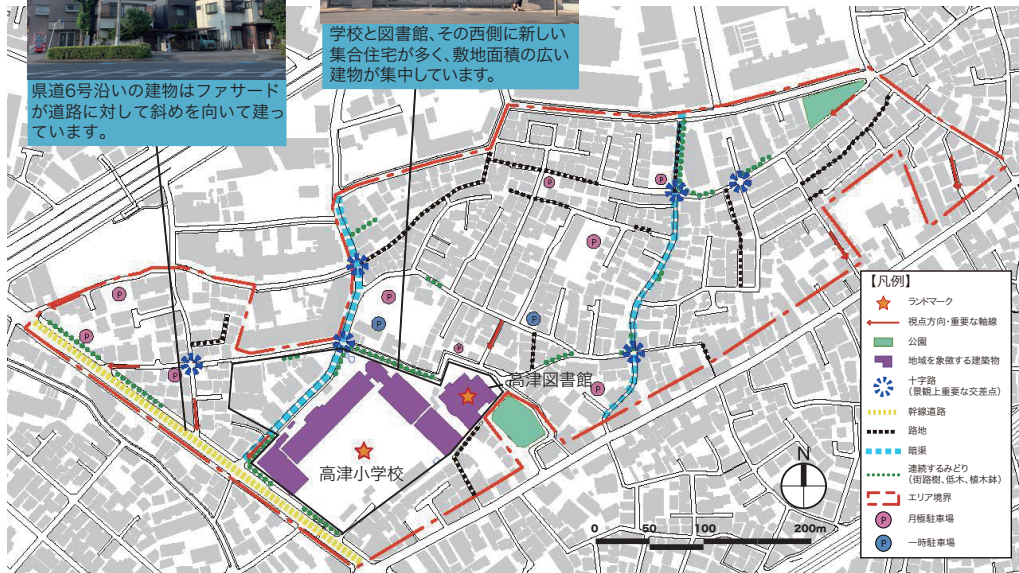
景観特性



県道6号沿いの建物はファサードが道路に対して斜めを向いて建てられています。



学校と図書館、その西側に新しい集合住宅が多く、敷地面積の広い建物が集中しています。



1. 暗渠と路地が交差する十字路



土地区画整理がされておらず基盤が生成的に形成されているため、車が通れない程細い路地が入り組んでいます。多摩川から広がるように通る暗渠と、県道6号、大山街道から派生した路地が垂直に交差し、その結果エリア内には十字路がいくつ生まれ、建て詰まった密集市街地の中で少し視界が広がる景観となっています。

2. 高密度な植栽による連続した緑



住宅の庭に生えている木、マンションの敷地内に設置されている低い植栽、空き地で手が付けられずに育った雑草など、多様な植栽があります。これらは住人の手によって育てられたものと、施主によって配置されたものの2種類に分けられ、それらが狭い空間の中に高密度に生えていることで連続した緑が生まれているのが景観の特徴です。

3. 住宅街の中に点在する駐車場



住宅に付随するものがまとめられた月極の駐車場と、住宅を取り壊して生まれた空き地を最低限活用したものだと思われる一時利用の駐車場があります。これらが住宅密集地内に点在しており、幅の狭い道路から視界が開ける景観になっています。

景観形成の目標

多摩川によって形成される街並みと自然を感じる景観を作る

多摩川から伸びる2本の暗渠を中心として、道路沿い、駐車場に多摩川の自然を感じられる景観形成を図る。

景観形成の方針

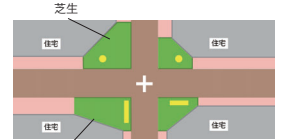
1. 多摩川によって形成される暗渠を活かした歩いて楽しい道をつくる

景観形成の考え方

多摩川の暗渠に自然を感じられる設えを施し、歩行者に優しい景観をつくる。

具体的な方策

- 多摩川の暗渠を舗装する。
- 暗渠と十字路で交差している道は、十字路から10m以内の場所も同様に舗装する。
- 十字路の空いている角地に芝生を敷いてベンチを設置し、休憩できるスペースを設ける。



レンガ敷の舗装、緑化

2. 高密度な植栽による連続した緑を保全し、緑豊かな住宅地の景観をつくる

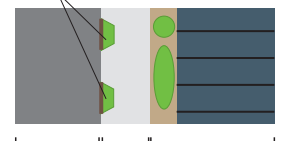
景観形成の考え方

今ある緑を継続するとともに、住民の手によって育てられる緑を積極的に増やす。

具体的な方策

- 車道と歩道の間に植栽を設置するゾーンを作ることで、住民の手によって育てられる植栽を増やす。
- 塀、さくなどを撤去し、敷地内の緑を道路から見えるようにすることで既存の緑を保全する。

歩道に植栽を設置する場所を設ける



道路から見える敷地内の緑

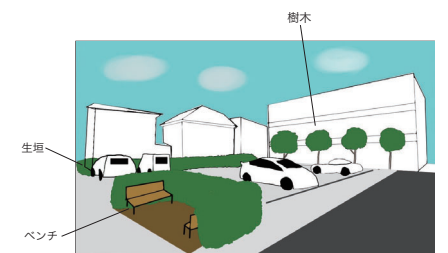
3. 空地としての駐車場に魅力を創造する

景観形成の考え方

空地として点在している駐車場に緑を増やし、緑豊かな景観を作る。

具体的な方策

- 駐車場にベンチを設置し、休憩できるスペースを設ける。
- 駐車場周囲の塀やさくは閉鎖的でないものにする。
- 駐車場に樹木、周囲に生垣等を配置する。



駐車場空間を彩る